

## 主な調査結果

### **総合型地域スポーツクラブの4割に障害者が参加**

障害者が「現在、参加している」または「過去に参加していた」総合型地域スポーツクラブは、全体のおよそ4割であった。障害者が参加している(していた)クラブは、参加していないクラブと比較して、会員数が多い、予算規模が大きい、常勤のマネージャーやスタッフの配置人数が多い傾向がみられた。【図表 3-8、3-38、3-39、3-41、3-42】

### **肢体不自由の方の参加が最も多く、複数の障害者が参加しているクラブは少数**

「肢体不自由」の障害者が参加しているクラブはおよそ5割、「知的障害」の障害者が参加しているクラブはおよそ4割、「発達障害」の障害者が参加しているクラブはおよそ3割であった。その他の種類の障害者の参加については、1割前後のクラブにとどまった。また、参加している障害者の障害の種類数としては、およそ5割のクラブが1種類であり、3種類以上の障害に対応しているクラブは、2割程度であった。【図表 3-10、3-11】

### **特別な配慮や対応はせずに、参加できる障害者が自然体で参加する傾向**

障害者がクラブに参加した経緯として、およそ7割のクラブが、「一般のプログラムに障害者の参加希望があった」と回答した。また、同じようにおよそ7割のクラブが、「一般のプログラムに特別な配慮なく参加している」としている。参加している種目としては、「卓球」「グラウンド・ゴルフ」「健康体操、運動」「ウォーキング、ハイキング」などが多かった。【図表 3-9、3-14、3-15】

### **複数の障害種に対応しているクラブほど、行政等、他組織との連携が活発**

障害者の参加に関して、他の組織から支援を受けたり、連携を図っているクラブは、全体ではおよそ2割であったが、3種類の障害に対応しているクラブではおよそ3割、4種類では4割、5種類以上では7割であった。支援、連携先としては、行政、障害福祉関連施設、社会福祉協議会などの回答が多かった。【図表 3-20、3-21、3-51】

### **受入への課題は指導者確保と情報。必要な支援は人材育成とプログラム提供**

障害者が「参加していない」「わからない」クラブにおける今後の受入については、およそ2割のクラブが「可能」、残りの8割が「条件により可能」「不可能」「わからない」としている。可能と回答した以外のクラブに課題を尋ねたところ、「障害者に対応できる指導者の確保」「障害者スポーツに関する知識の習得や体験、情報の収集」などが多かった。障害者スポーツ協会、障害者スポーツセンター等への要望としては、スタッフ対象の講習会や研修、プログラム提供などがあげられた。【図表 3-33、3-34、3-37】

### **障害者の参加経緯や活動状況はさまざま。障害者スポーツセンターが拠点となるクラブも**

事例ヒアリング調査から、総合型クラブに参加している障害者の状況が多様であることが確認された。県の障害者スポーツセンターを拠点に、障害者と健常者が共に活動する高知チャレンジドクラブ、県の障害者スポーツ協会と連携して、クラブのイベントで障害者と交流する七瀬の里 N クラブなど、「障害者スポーツ」に参加するクラブもあるが、多くのクラブでは、少数の障害者が健常者に混じって一般のスポーツプログラムに参加している。